

393		チョウ目 (鱗翅目)	セセリチョウ科	クロセセリ	Notocrypta curvifascia
394		チョウ目 (鱗翅目)	セセリチョウ科	ヒメキマダラセセリ	Ochlodes ochraceus
395		チョウ目 (鱗翅目)	セセリチョウ科	イチモンジセセリ	Parnara guttata
396		チョウ目 (鱗翅目)	セセリチョウ科	ミヤマチャバネセセリ	Pelopidas jansonis
397		チョウ目 (鱗翅目)	セセリチョウ科	チャバネセセリ	Pelopidas mathias
398		チョウ目 (鱗翅目)	セセリチョウ科	キマダラセセリ	Potanthus flavus
399		チョウ目 (鱗翅目)	セセリチョウ科	コチャバネセセリ	Thoressa varia
400		チョウ目 (鱗翅目)	タテハチョウ科	サカハチチョウ	Araschnia burejana
401		チョウ目 (鱗翅目)	タテハチョウ科	ミドリヒョウモン	Argynnis paphia
402		チョウ目 (鱗翅目)	タテハチョウ科	ツマグロヒョウモン	Argyreus hyperbius
403		チョウ目 (鱗翅目)	タテハチョウ科	ヒメアカタテハ	Cynthia cardui
404		チョウ目 (鱗翅目)	タテハチョウ科	イシガケチョウ	Cyrestis thyodamas
405		チョウ目 (鱗翅目)	タテハチョウ科	ウラギンヒョウモン	Fabriciana adippe
406		チョウ目 (鱗翅目)	タテハチョウ科	ゴマダラチョウ	Hestina japonica
407		チョウ目 (鱗翅目)	タテハチョウ科	ルリタテハ	Kaniska canace nojaponicum
408		チョウ目 (鱗翅目)	タテハチョウ科	イチモンジチョウ	Limenitis camilla
409		チョウ目 (鱗翅目)	タテハチョウ科	コムスジ	Neptis sappho
410		チョウ目 (鱗翅目)	タテハチョウ科	ヒオドシチョウ	Nymphalis xanthomelas
411		チョウ目 (鱗翅目)	タテハチョウ科	キタテハ	Polygonia c-aureum
412	※	チョウ目 (鱗翅目)	タテハチョウ科	オオムラサキ	Sasakia charonda
413		チョウ目 (鱗翅目)	タテハチョウ科	アカタテハ	Vanessa indica
414		チョウ目 (鱗翅目)	テングチョウ科	テングチョウ	Libythea celtis
415		チョウ目 (鱗翅目)	ヒトリガ科	キハダカノコ	Amata germana
416		チョウ目 (鱗翅目)	ヒトリガ科	サラサヒトリ	Camptoloma interiorata
417		チョウ目 (鱗翅目)	ヒトリガ科	フトスジモンヒトリ	Spilarctia obliquizonata
418		チョウ目 (鱗翅目)	ヒトリガ科	スジモンヒトリ	Spilarctia seriatopunctata
419		チョウ目 (鱗翅目)	ヒトリガ科	オビヒトリ	Spilarctia subcarnea
420		チョウ目 (鱗翅目)	ヒトリガ科	キハラゴマダラヒトリ	Spilosoma lubricipeda
421		チョウ目 (鱗翅目)	ヒトリガ科	アカハラゴマダラヒトリ	Spilosoma punctaria
422		チョウ目 (鱗翅目)	マダラガ科	ホタルガ	Pidorus atratus
423	※	チョウ目 (鱗翅目)	マダラチョウ科	アサギマダラ	Parantica sita
424		チョウ目 (鱗翅目)	ヤママユガ科	ヤママユ	Antheraea yamamai
425		チョウ目 (鱗翅目)	ヤママユガ科	ウスタバガ	Rhodinia fugax
426		チョウ目 (鱗翅目)	ヤママユガ科	ヒメヤママユ	Rinaca jonassii
427		チョウ目 (鱗翅目)	ヤママユガ科	シンジュサン	Samia pryeri
428		トビケラ目 (毛翅目)	トビケラ科	ムラサキトビケラ	Eubasilissa regina
429		トビケラ目 (毛翅目)	ヒゲナガカワトビケラ科	ヒゲナガカワトビケラ	Stenopsyche marmorata
430		トンボ目 (蜻蛉目)	イトトンボ科	クロイトトンボ	Cercion calamorum
431	○	トンボ目 (蜻蛉目)	イトトンボ科	アオモンイトトンボ	Ischnura senegalensis
432		トンボ目 (蜻蛉目)	エゾトンボ科	オオヤマトンボ	Epopththalmia elegans
433		トンボ目 (蜻蛉目)	エゾトンボ科	タカネトンボ	Somatochlora uchidai
434		トンボ目 (蜻蛉目)	オニヤンマ科	オニヤンマ	Anotogaster sieboldii
435		トンボ目 (蜻蛉目)	カワトンボ科	ハグロトンボ	Calopteryx atrata
436		トンボ目 (蜻蛉目)	カワトンボ科	ミヤマカワトンボ	Calopteryx cornelia
437	○ ※	トンボ目 (蜻蛉目)	カワトンボ科	アサヒナカワトンボ	Mnais pruinosa
438		トンボ目 (蜻蛉目)	サナエトンボ科	ヤマサナエ	Asiagomphus melaenops
439	○	トンボ目 (蜻蛉目)	サナエトンボ科	オナガサナエ	Onychogomphus viridicosta
440		トンボ目 (蜻蛉目)	サナエトンボ科	コオニヤンマ	Sieboldius albardae
441		トンボ目 (蜻蛉目)	トンボ科	シオカラトンボ	Orthetrum albistylum speciosum
442		トンボ目 (蜻蛉目)	トンボ科	オオシオカラトンボ	Orthetrum triangulare
443		トンボ目 (蜻蛉目)	トンボ科	ウスバキトンボ	Pantala flavescens
444		トンボ目 (蜻蛉目)	トンボ科	コシアキトンボ	Pseudothemis zonata
445		トンボ目 (蜻蛉目)	トンボ科	ナツアカネ	Sympetrum darwinianum
446		トンボ目 (蜻蛉目)	トンボ科	マユタテアカネ	Sympetrum eroticum
447		トンボ目 (蜻蛉目)	トンボ科	アキアカネ	Sympetrum frequens
448		トンボ目 (蜻蛉目)	トンボ科	ミヤマアカネ	Sympetrum pedemontanum
449		トンボ目 (蜻蛉目)	モノサシトンボ科	モノサシトンボ	Copera annulata
450		トンボ目 (蜻蛉目)	ヤンマ科	カトリヤンマ	Gynacantha japonica
451		ナナフシ目 (竹節虫目)	ナナフシ科	エダナナフシ	Phraortes illepidus
452	○	ナナフシ目 (竹節虫目)	ナナフシ科	タイワントビナナフシ	Sipyloidea sipylus
453		ハエ目 (双翅目)	アブ科	ウシアブ	Tabanus trigonus
454		ハエ目 (双翅目)	イエバエ科	イエバエ	Musca domestica
455		ハエ目 (双翅目)	クロバエ科	オオクロバエ	Calliphora nigribarbis
456		ハエ目 (双翅目)	クロバエ科	キンバエ	Lucilia caesar
457		ハエ目 (双翅目)	ツリアブ科	ピロウドツリアブ	Bombylius major
458		ハエ目 (双翅目)	ニクバエ科	センチニクバエ	Sarcophaga peregrina

459		ハエ目(双翅目)	ハナアブ科	ハナアブ	<i>Eristalis tenax</i>
460		ハエ目(双翅目)	ベッコウバエ科	ベッコウバエ	<i>Dryomyza formosa</i>
461		ハエ目(双翅目)	ミズアブ科	アメリカミズアブ	<i>Hermetia illucens</i>
462		ハエ目(双翅目)	ミズアブ科	コウカアブ	<i>Pteticus tenebrifer</i>
463	○	ハエ目(双翅目)	ムシヒキアブ科	アオメアブ	<i>Cophinopoda chinensis</i>
464		ハチ目(膜翅目)	アナバチ科	サトジガバチ	<i>Ammophila sabulosa</i>
465	○	ハチ目(膜翅目)	アナバチ科	クロアナバチ	<i>Spheg argentatus</i>
466	○	ハチ目(膜翅目)	アナバチ科	キンモウアナバチ	<i>Spheg diabolicus flammitricus</i>
467		ハチ目(膜翅目)	コシブトハナバチ科	クマバチ	<i>Xylocopa appendiculata</i>
468		ハチ目(膜翅目)	スズメバチ科	フタモンアシナガバチ	<i>Polistes chinensis</i>
469		ハチ目(膜翅目)	スズメバチ科	セグロアシナガバチ	<i>Polistes jadvigae</i>
470		ハチ目(膜翅目)	スズメバチ科	キアシナガバチ	<i>Polistes rothneyi</i>
471		ハチ目(膜翅目)	スズメバチ科	コアシナガバチ	<i>Polistes snelleni</i>
472		ハチ目(膜翅目)	スズメバチ科	コガタスズメバチ	<i>Vespa analis</i>
473		ハチ目(膜翅目)	スズメバチ科	モンズズメバチ	<i>Vespa crabro</i>
474		ハチ目(膜翅目)	スズメバチ科	オオスズメバチ	<i>Vespa mandarinia</i>
475		ハチ目(膜翅目)	スズメバチ科	キイロスズメバチ	<i>Vespa simillima</i>
476		ハチ目(膜翅目)	スズメバチ科	ヒメスズメバチ	<i>Vespa tropica</i>
477		ハチ目(膜翅目)	スズメバチ科	クロスズメバチ	<i>Vespaula flaviceps</i>
478		ハチ目(膜翅目)	ツチバチ科	ハラナガツチバチ	<i>Campsomeris schulthessi</i>
479		ハチ目(膜翅目)	ツチバチ科	オオハラナガツチバチ	<i>Megacampsomeris grossa</i>
480	○	ハチ目(膜翅目)	ドロバチ科	フタオビドロバチ本土亜種	<i>Anterhynchium flavomarginatum micado</i>
481		ハチ目(膜翅目)	ドロバチ科	オオカバフドロバチ	<i>Orancistrocerus drewseni drewseni</i>
482	○	ハチ目(膜翅目)	ドロバチ科	スズバチ	<i>Oreumenes decoratus</i>
483		ハチ目(膜翅目)	ミツバチ科	ニホンミツバチ	<i>Apis cerana</i>
484		ハチ目(膜翅目)	ミツバチ科	セイヨウミツバチ	<i>Apis mellifera</i>
485		ハチ目(膜翅目)	ミツバチ科	トラマルハナバチ	<i>Bombus diversus</i>
486		ハチ目(膜翅目)	ミツバチ科	クロマルハナバチ	<i>Bombus ignitus</i>
487		バッタ目(直翅目)	カネタタキ科	カネタタキ	<i>Ornebius kanetataki</i>
488		バッタ目(直翅目)	カマドウマ科	カマドウマ	<i>Diestrammena apicalis</i>
489		バッタ目(直翅目)	キリギリス科	オナガササキリ	<i>Conocephalus gladius</i>
490		バッタ目(直翅目)	キリギリス科	ホシササキリ	<i>Conocephalus maculatus</i>
491		バッタ目(直翅目)	キリギリス科	ササキリ	<i>Conocephalus melas</i>
492		バッタ目(直翅目)	キリギリス科	セスジツユムシ	<i>Ducetia japonica</i>
493		バッタ目(直翅目)	キリギリス科	クビキリギス	<i>Euconocephalus varius</i>
494	○ ※	バッタ目(直翅目)	キリギリス科	ニシキリギリス	<i>Gampsocleis buergeri</i>
495	○	バッタ目(直翅目)	キリギリス科	ハタケノウマオイ	<i>Hexacentrus unicolor</i>
496		バッタ目(直翅目)	キリギリス科	クダマキモドキ	<i>Holochlora japonica</i>
497		バッタ目(直翅目)	キリギリス科	ツユムシ	<i>Phaneroptera falcata</i>
498		バッタ目(直翅目)	キリギリス科	アシグロツユムシ	<i>Phaneroptera nigroantennata</i>
499		バッタ目(直翅目)	キリギリス科	クサキリ	<i>Ruspolia lineosa</i>
500		バッタ目(直翅目)	コオロギ科	マダラスズ	<i>Dianemobius fascipes</i>
501		バッタ目(直翅目)	コオロギ科	ハラオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus campestris</i>
502		バッタ目(直翅目)	コオロギ科	カンタン	<i>Oecanthus longicaudus</i>
503		バッタ目(直翅目)	コオロギ科	エンマコオロギ	<i>Teleogryllus emma</i>
504	○ ※	バッタ目(直翅目)	コオロギ科	アオマツムシ	<i>Truljalia hibinonis</i>
505		バッタ目(直翅目)	コロギス科	ハネナシコロギス	<i>Nippancistroger testaceus</i>
506		バッタ目(直翅目)	コロギス科	コロギス	<i>Prosopogryllacris japonica</i>
507		バッタ目(直翅目)	バッタ科	ショウリョウバッタ	<i>Acrida cinerea</i>
508		バッタ目(直翅目)	バッタ科	ヒナバッタ	<i>Chorthippus brunneus</i>
509		バッタ目(直翅目)	バッタ科	クルマバッタ	<i>Gastrimargus marmoratus</i>
510		バッタ目(直翅目)	バッタ科	トノサマバッタ	<i>Locusta migratoria</i>
511		バッタ目(直翅目)	バッタ科	セトウチフキバッタ	<i>Parapodisma setouchiensis</i>
512		バッタ目(直翅目)	バッタ科	ツチイナゴ	<i>Patanga japonica</i>
513		バッタ目(直翅目)	バッタ科	イボバッタ	<i>Trilophidia annulata</i>
514		バッタ目(直翅目)	ヒシバッタ科	ハラヒシバッタ	<i>Tetrix japonica</i>
	○	今回新たに確認された種			
	※	環境重要種と和名変更及び新しく記載された種			

## ⑤ 鳥 相 「大山ダム周辺の鳥類について」

大山ダム周辺の森林植生は古くからの植林活動により大部分がスギ・ヒノキの人工林で占められている。また、この地域はシイタケ栽培が盛んであることからシイタケ原木であるクヌギ林も多く、これに自然植生のコナラ・ミズナラ等が混在している。

ダム周辺ではシイ・カシ等の広葉樹林は崖地や岩石地の急斜面などに残されている。さらに赤石川や、赤石川支流の小さな谷川沿いにも広葉樹林が点在している。ダム周辺の小集落では、小さいながらも水田や畑が維持されており、このような森林植生、自然環境の中で動物相の鳥類はどんな種類が生息しているかを調べた。

鳥類は大きく分けて陸生鳥類と海生鳥類に大まかに分けられる。全体的に見ると海や水辺に棲む鳥類の方が多し。中山間部に位置する大山ダム周辺では当然、陸生鳥類が中心である。しかし、淡水の小さな河川や谷川など水辺域をおもに生息の場とする野鳥もわずかながら存在している。

ダム周辺で観察された鳥類は14目34科92種であった。これに、外来種を含めると14目35科96種となった。過去に日田市を中心に郷土日田の自然調査会が調査した大鶴・小野地区や東部、南部地区では約90種から120種が観察されている。大山ダム周辺では91種、外来種を含めると96種が観察されたことはまずまずの種数である。

これらの生活型は留鳥49種、夏鳥21種、冬鳥23種、旅鳥2種、漂鳥1種で留鳥が多かった。

主な種類は留鳥ではヒヨドリ・ウグイス・ホオジロ・シジュウカラ・メジロ、夏鳥ではキビタキ・オオルリ・ホトトギス・ツバメ・ヤブサメ、冬鳥ではカモ類・ハイタカ・ノスリ・ジョウビタキ・シロハラ・ツグミ、旅鳥ではノビタキ・エゾビタキ、漂鳥ではセッカであった。一般鳥類として主な鳥はヒヨドリ・シジュウカラ・ウグイス・ヤマガラ・エナガ・メジロ・ホオジロ等である。

大山ダム周辺の特徴として猛禽類の種類が多かったことであろう。タカ類はクマタカをはじめ10種類が確認されている。もともと猛禽類は個体数が少なく、サシバやハチクマ等渡りの時期を除き、群れで出現することは極まれである。それでも10種類が観察されたことはダム周辺のスギ・ヒノキの人工林が多いにもかかわらず、森林植生の配置や複雑な地形などの自然条件がこのような結果を表わしていると思われる。なかでもクマタカは森の王者の品格を備え、当該ダム周辺でも旧前津江村を中心に推定5つがい過去に観察されている。このことはクマタカが本来棲息するであろうという深山・奥山の従来の知見を覆し、里山・人里周辺近くでも生活していることがわかる。

特にその野生生息数が少ないとされる希少種（RDB）関係では次のとおりである。

環境省（RDB）

絶滅Ⅰ類 クマタカ、

絶滅Ⅱ類 サシバ・ハヤブサ・ヨタカ・サンショウクイ

準絶滅 オオタカ・ミサゴ・ハチクマ・ヤマドリ

大分県（RDB）

絶滅ⅠB類 クマタカ・ヨタカ

絶滅Ⅱ類 オシドリ・オオタカ・ツミ・サシバ・ハヤブサ・フクロウ・アカショウビン

サンショウクイ

準絶滅 ミサゴ・ハチクマ・ハイタカ・ノスリ・アオバズク・アマツバメ・キビタキ

サンコウチョウ・ヤマドリ

となっている。また、「種の保存法」では希少種にハヤブサが該当している。

### 大山ダム周辺の鳥類を豊かにしよう

鳥類を増やすことは豊かな森林・自然を増やして整えることです。多くの鳥類を増やすことは豊かな森林・自然林を造ることにつながります。たくさんの鳥類（種類と数）が棲む里山の自然とはどのようなところでしょう？

まず、たくさんの餌があることです。鳥が飛ぶという運動には多くのエネルギーを必要とします。つまり、エネルギーの基となる餌がたくさんあることです。具体的には木の実や昆虫・小動物を増やしてやることです。木の実や昆虫がたくさんいるところといえば主に森林でしょう。昆虫が棲む豊かな森林を整備することが第一です。餌の次に大事なことは鳥が安心して休むことができる休息場所です。餌を採

ったらその餌を消化しなくてはなりません。そのためには安心して休息する場所が必要です。高い樹木上や姿を隠してしまう木々の繁み、低木林・ササ等の藪があることも必要です。主にはこの二つの条件が整えば、多くの野鳥が集まってくることでしょう。たくさんの野鳥を誘致するためには、ダム周辺の「里山の森」を豊かな森林にしていくことだといえます。

私たちが探鳥会等で野鳥観察をしようとするとき、豊かな森林が存在する場所をまず選ぶでしょう。黒岳の自然林や上津江のフッシングパークのケヤキ林、耶馬溪の溪谷林をめざして行きますが、思ったほど野鳥の種類や数が少なく、がっかりすることがあります。スギ・ヒノキの一斉人工林やケヤキだけの林、クヌギだけの林などのように一つ二つの少ない種類で構成されている森林のことです。こういった森林では意外と野鳥の種類・数ともに少ないことが多分にあるのです。逆にスギ・ヒノキやクヌギその他広葉樹等たくさんの種類が入れ混じっている林、また針葉樹、広葉樹（常緑樹や落葉樹）の混交した林、さらに高木や低木、ススキ・ササ等が密生した藪などでは野鳥の種類・数とも大変多くなることが経験的に知られています。さらに言えば明るいギャップがある林、谷川等の水場や、特に寒さの厳しい冬季では風当たりの弱い陽だまり等に多くの野鳥が見られます。このようなことから野鳥を誘致するためには、木の実のなる樹木を積極的に植えることが先決です。木の実のなる種類はたくさんありますが、特に小鳥が好み、その地方に自生している木を中心に植栽樹種を選定することです。

ツグミ科にイソヒヨドリという鳥がありますが、この鳥はダム建設の前には生息記録の無かった種類でしたが、ダム完成（貯水）後にダムサイトで観察され、新たにリストに加えられました。また、ダム周辺ではシイ・カシ等のどんぐりの実がつく常緑広葉樹があります。このどんぐりを食べにカモ類のオシドリもダム湖面にやって来るようになりました。このように、自然が人工的に多少改変されたとしても、新たにやってくる種もあるあります。

現在の大山ダム周辺をとりまく森林樹種の分布状態を把握し、さきに述べたような針葉樹・広葉樹等の混交した複雑な森林に改良していくことがこれからの重要な取組みと考えられます。



林相が複雑な森林の例



イソヒヨドリ(♂) [www.yachoo.org/book/view/isohiyodori](http://www.yachoo.org/book/view/isohiyodori)

### 大山ダム周辺の鳥類リスト

NO	目	科	種	学名	生活型
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	Tachybaptus ruficollis	留鳥
2	コウノトリ	サギ	ゴイサギ	Nycticorax nycticorax	留鳥
3			ササゴイ	Butorides striatus	夏鳥
4			ダイサギ	Butorides ibis	留鳥
5			コサギ	Egretta garzetta	留鳥
6			アオサギ	Ardea cinerea Linnaeus	留鳥
7			カモ	カモ	オシドリ
8	マガモ	Anas platyehynchos Linnaeus			冬鳥
9	コガモ	Anas crecca Linnseus			冬鳥
10	ヒドリガモ	Anas penelope Linnaeus			冬鳥

11	タカ	タカ	ミサゴ	Pandion haliaetus	留鳥
12			ハチクマ	Pernis apivorus	夏鳥
13			トビ	Milvus migrans	留鳥
14			オオタカ	Accipiter gentilis	留鳥
15			ツミ	Accipiter gularis	夏鳥
16			ハイタカ	Accipiter nisus	冬鳥
17			ノスリ	Buteo buteo	冬鳥
18			サシバ	Butastur indicus	夏鳥
19			クマタカ	Spizaetus nipalensis	留鳥
20		ハヤブサ	ハヤブサ	Falco peregrinus Tunstaii	冬鳥
21	キジ	キジ	ヤマドリ	Phasianus soemmerringii	留鳥
22			キジ	Phasianus colchicus	留鳥
23	ハト	ハト	キジバト	Streptopelia orientalis	留鳥
24			アオバト	Sphenurus sieboldii	留鳥
25	カッコウ	カッコウ	カッコウ	Cuculus canorus	夏鳥
26			ツツドリ	Cuculus saturatus	夏鳥
27			ホトギス	Cuculus poliocephalus	夏鳥
28	フクロウ	フクロウ	アオバズク	Ninox scutulata	夏鳥
29			フクロウ	Strix uralensis	留鳥
30	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	Captimnlgus indicus	夏鳥
31	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ	Apus pacificus	夏鳥
32	ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ	Ceryle lugubris	留鳥
33			アカショウビン	Halcyoncoromanda	夏鳥
34			カワセミ	Alcedo atthis	留鳥
35	キツツキ	キツツキ	アオゲラ	Picus awpkera	留鳥
36			オオアカゲラ	Dendrocopos leucotos	留鳥
37			コゲラ	Dendrocopos kizuki	留鳥
38	スズメ	ヒバリ	ヒバリ	Alauda arvensis	留鳥
39		ツバメ	ツバメ	Hirundo rustica	夏鳥
40			コシアカツバメ	Hirundo daurica	夏鳥
41			イワツバメ	Delichon urbica	留鳥
42		セキレイ	キセキレイ	Motacilla cinerea	留鳥
43			ハクセキレイ	Motacilla alba	留鳥
44			セグロセキレイ	Motacilla grandis	留鳥
45			ビンズイ	Anthus hodgsoni	冬鳥
46			タヒバリ	Anthus spinoletta	冬鳥
47		サンショウクイ	サンショウクイ	Pericrocotus divaricatus	夏鳥
48		ヒヨドリ	ヒヨドリ	Hypsipetes amaurotis	留鳥
49		モズ	モズ	Lanius bucephalus	留鳥
50	スズメ	カワガラス	カワガラス	Cinclus pallasii	留鳥
51		ミノサザイ	ミノサザイ	Troglodytes troglodytes	留鳥
52		ツグミ	ルリビタキ	Tarsiger cyanurus	冬鳥
53			ジョウビタキ	Phoenicurus aureus	冬鳥
54			ノビタキ	Saxicola torquata	旅鳥
55			トラツグミ	Zoothera dauma	留鳥
56			シロハラ	Turdus pallidus	冬鳥
57			ツグミ	Turdus naumanni	冬鳥
58		ウグイス	ヤブサメ	Urosphena squameiceps	夏鳥

59			ウグイス	Cettia diphone	留鳥
60			オオヨシキリ	Acrocephalus arundinaceus	夏鳥
61			センダイムシクイ	Phylloscopus coronatus	夏鳥
62			ククイタダキ	Regulus regulus	冬鳥
63			セッカ	Cisticola juncidis	漂鳥
64		ヒタキ	キビタキ	Ficedula narcissina	夏鳥
65			オオルリ	Cyanoptila cyanomelana	夏鳥
66			エゾビタキ	Muscicapa griseisticta	旅鳥
67			コサメビタキ	Muscicapa dauurica	夏鳥
68		カササギビタキ	サンコウチョウ	Terpsiphone atrocaudata	夏鳥
69		エナガ	エナガ	Aegithalos caudatus	留鳥
70		シジュウカラ	ヒガラ	Parus ater	留鳥
71			ヤマガラ	Parus varius	留鳥
72			シジュウカラ	Parus major	留鳥
73		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	Sitta europaea	留鳥
74		メジロ	メジロ	Zosterops japonica	留鳥
75		ホオジロ	ホオジロ	Emberiza cioides	留鳥
76			カシラダカ	Emberiza rustica	冬鳥
77			ミヤマホオジロ	Emberiza elegans	冬鳥
78			アオジ	Emberiza spodocephala	冬鳥
79			クロジ	Emberiza variabilis	冬鳥
80		アトリ	アトリ	Fringilla montufringilla	冬鳥
81			カワラヒワ	Carduelis sinica	留鳥
82			マヒワ	Carduelis spinus	冬鳥
83			ベニマシコ	Uragus sibiricus	冬鳥
84			ウソ	Pyrrhula pyrrhula	冬鳥
85			イカル	Eophona personata	留鳥
86			シメ	Coccothraustes coccothraustes	冬鳥
87		ハタオリドリ	スズメ	Passer montanus	留鳥
88		ムクドリ	ムクドリ	Sturnus cineraceus	留鳥
89		カラス	カケス	Garrulus glandarius	留鳥
90			ハシボソガラス	Corvus corone	留鳥
91			ハシブトガラス	Corvus macrorhynchos	留鳥
外来種	キジ	キジ	コジュケイ	Bambusicola thoracica	留鳥
	ハト	ハト	カワラバト	Columba livia	留鳥
	スズメ	チメドリ	ガビチョウ	Garrulax canorus	留鳥
			ソウシチョウ	Leiothrix lutea	留鳥
合計	14	34	91		

※ 新規追加種として、以下のとおりである。

スズメ目

ツグミ科

イソヒヨドリ

Monticola solitaries

留鳥

(財津博文)



クマタカ 平成 22 年生まれの幼鳥（大山ダム建設所提供）

## ⑥ その他の動物相

絶滅状態にあるヤマネやキツネなど問題は多いが、森林再生・水源林整備に直接の関係があるシカの食害について報告する。シカはこれまで大山ダム水源域にほとんど生息していなかったが近年侵入し、個体数を増やしつつある。それでもまだ目撃例も少なく、日田地方でシカの食害の少ない幸運な地域である。この地域で今のうちに多様な森づくりを成功させ得なければ、他所のシカの摂食圧の大きい場所では成林は期待できない。シカ害防止策には様々な方策が提案されネットなど工夫されてはいるが決め手が無く、狩猟圧を高めることが急務となっている。報奨金制度も効果的だが、何よりもシカ肉の利用、消費拡大を図らねばならない。今回の植樹祭では、「老松生産森林組合」のしし鍋と「ひびきの郷」製の鹿飯握りを提供したが、大好評であった。ひびきの郷の料理長も気に入っており、同ホテルの定番メニューにしてもらいたいものである。それが、シカの個体数調節にいくらかでも役立てば有り難いことである。

(神川建彦)

## (2) 水源林林況調査

### ① 自然林林況調査

自然林の定義の定義も、論者によって多少の違いがあり、天然林、天然生林（萌芽再生林）、二次林、原生林などとの整理が必要で、さらには広葉樹林と同義につかうものまであって統一された定義はないようである。暖帯性常緑広葉樹林と照葉樹林も微妙に違うようである。ここでは、人工植栽によらないで成立した森林を呼ぶことにする。原生林は、長期間森林状態で且つ長期間人為的な攪乱や分断を受けなかった森林とされ、それなりの特徴・雰囲気有するが、水源域最上流部の前津江町御前岳のシオジ林はそれに該当すると言えるであろう。

ダム湖に近い烏宿神社社叢、および竹の迫自然林で現地調査を行い、水源地域最上流部の御前釈迦原生林について、文献調査および補足調査を行った。

#### 調査地 No.1 烏宿山自然林 スダジイ林

面積が狭く、一部に平成 3 年の台風 19 号による倒伏など攪乱されているが、ほとんど極相に近い自然林である。スダジイが優占しウラジロガシ、アカガシ、タブノキ、クロキなどが多い。江戸時代の文書に、全山大きなスギに覆われるとあり、巨樹の根株が数個体残る。スギ人工林跡地でも十分自然林に誘導できることを示している。ただし、人工林の履歴を有するための種数の少なさは否めない。